

MEMO

「三四郎」

夏目漱石

漱石文学の一つの中心であるいわゆる前後期三部作の始まりをなす非常に重要な作品である。

いなか者である。発車 まぎわ……

たしかに前の前の駅から乗た

話を始めている。このじいさんは

女はいつのまにか隣のじいさんと

うとうとうとして目がよめると